
目が覚めて 翼が生えて イケメンに・・・

御坂弟

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

目が覚めて 翼が生えて イケメンに・・・

【Nコード】

N5321Z

【作者名】

御坂弟

【あらすじ】

親に虐待ばかり受けていた少年は、人生を諦めかけていた
そして、そこに差し伸べられる手は・・・

終わって始まる

・・・もう・・・いやだ・・・

どうしてボクがこんな目に・・・

ボク・・・悪いことしてないのに・・・

・・・

ボクは絶望した・・・

小学生三年の時に両親は離婚、理由は父の多大な借金
ボクは母と共に家を出た・・・

そしてあれは小学六年のときか・・・

新しい父が家に来た、最初は優しかった・・・

・・・そう、最初は・・・

一年後に母が突然の病死

そして父は変わってしまった

毎日酒を飲み続ける毎日、

酒が尽きれば、ボクに暴力を振るった・・・

毎日・・・毎日・・・

やがて父が死んだ、死因は農薬を飲んだ自殺だった

・・・そして残ったのは、父の残した借金と
・・・ボクだった

．．．．．

「可愛そうに．．．、せめてもう一度、人生を歩ませて上げよう」

真っ白で、何も無い世界、そこで男は呟いた

「全てを忘れなさい、君を別の世界に送ろう」

．．．そして男は消えた

．．．．．

少年、篠ノ之龍次は十五歳の夜に．．．

．．．死んだ

しかしそれは新たな物語の始まり．．．

起きた俺 目の前にはね 美少女が・・・

「う、ううん？」

「ここ、どこだ？」

真っ暗やんけ、ちゃんと豆電球点けて寝たよな？

「おーい、おーきーろー」

おお、いい句を思いついた

暗闇に 聞こえる声は 綺麗だな・・・
季語が入ってないのは割合で・・・

「起きろ！このやるっ！」

「アベシッ！」

突然腹に突き刺さるような痛みがあ！

「なにしゃが・・・る・・・」

俺は声を失った、なぜなら目の前に居るのは・・・

「おっ、やっと起きたか」

金髪碧眼の美少女だったのだから・・・

ふむ、中々のスタイルだ、胸も大きすぎず、ぐべっ！

「なんかいやらしい目で見られた気がした・・・」

今度は鳩尾に強烈な右ストレート、このパンチ世界目指せるぞ・・・

「さっきからボカボカ殴りやがって、調子ノンな!」

「何言ってるのよ? ひとんちに突然落下して来たくせに」

周りを見渡すと資材庫のようになっていた、そして天井には穴が空いていて

そこから月の光が差し込んでいた・・・

「・・・確かにアレを見るとそうなのかもな」

俺は天井の穴を指差す

「所で、アンタ何者? 空から落ちてくるなんて」

「んん? それが思い出せないんだよね。此処どこ?」

「だから、私の家だって」

「いや、もっと具体的に」

「ここは、日本の東京都の池袋の五月雨学園の近くよ」

ふむ、五月雨学園ね・・・

「五月雨学園ってなんだ?」

「超能力的能力を持った人物達の集まるところね」

「そうかい、長々と済まないな。じゃあ俺は出てくよ」

俺は立ち上がる、すると俺の両脇に落ちていた瓦礫が動く・・・

「あ、アンタ！それ・・・」

少女は俺の後ろを指差す

「なんだ？つてうおっ！何この翼！」

「アンタ能力を持ってたの？でもそんなの見たこと無いわ・・・」

「これ能力なのか？・・・消せんのか？」

俺は翼が消えるように念じてみる、すると陽炎のように翼が消えた

「じゃあ、今度こそじゃあな」

「アンタ行くとこあるの？」

その言葉を聴いた俺はびくっとなる、そういえば俺行くとこねえじゃん

「も、もしアンタがどうしてもって言うんなら、と、泊めてあげてもいいわよ」

わあ、ムッチャ顔赤いし、すげーツンデレっぽい喋り方だ
まあ、可愛いから許す！

「じゃ、じゃあお願いするよ」

「まったく、しょ、しょうがないわね」

俺はポケットに手をつ込み、歩き出した彼女を追っていく
・・・って何この展開！

起きた俺 目の前にはね 美少女が・・・（後書き）

主人公は、転移の際に顔、口調を変えられ、記憶を消されています。
また、能力も神に与えられたものです

ドキドキと 高鳴る鼓動 何だろっ・・・（前書き）

薄々気付いた人も居るでしょうが、実は話のタイトルが俳句になつてます

ただ、思いつかないときは普通のタイトルになります

ドキドキと 高鳴る鼓動 何だろう・・・

場所は移り、女の家

「ところでアンタなんか持っていないの？身分証とか」

「んん？チヨイ待ち」

ゴソゴソ

ん？これは・・・

「有った！」

「これって、うちの学校の生徒手帳じゃない！しかも同じ学年じゃん！」

手帳を見ると、そこには・・・

〔五月雨学園 二年所属 篠ノ之龍次 階級ピアノ〕

〔上記の者は本校の生徒であることを証明する〕

ピアノって何だよ、ピアノって

おかしいだろ！楽器かよ！？

「あら？階級は意外に普通ね。見たこと無い能力だからフォルテクラスだと思ったんだけど」

「あの、その階級ってなんだ？」

「階級つてのは、その学年の中でその人がどれだけ優れているかを現すものよ。」

階級を上げたい者は、月に一回承認テストがあるからそれに受かればいいの

ちなみに一番上がフォルテ・フォルティッシモで下がピアノッシモよ」

「ふーん、じゃあアンタのクラスは？」

「私はフォルテクラスよ、フォルティッシモクラスになるとほんとに数人しか居ないから」

つまり、コイツ・・・えーと、名前聞いてねえや

「アンタ名前は？」

「私は園咲奏^{そのなかで}アンタと同学年ってことになってるけど、見たこと無いのよね、まあ、多分転校生とかで来る予定だったんじゃない？」

俺が五月雨学園にねえ

俺はそんなことを考えながら生徒手帳をペラペラめくると、不思議なページを見つけた・・・

「ああ、そのページは今のその生徒手帳の所有者の能力の詳細を表示するページね」

「だったら最初から教えるよ!」

「ゴメンゴメン、忘れてたんだって」

まったく

俺はそのページを見る、すると・・・

篠ノ之龍次 能力詳細

ベクトル変換能力

体表面に触れたあらゆる力のベクトルを任意に操作する能力

未元物質

この世に存在しない新しい物質を作り出す能力

ドラゴンハート
龍の鼓動

体を強化し、身体能力、身体治癒能力などを最大限に引き出す能力

って、

「なにこのチート能力!?!」

俺達二人の声が重なる、そりゃそうだ、こんなもんあったら苦労しないぞ

「アンタホントに何者!?!」

「しらねえよ!?!俺も驚いてんだよ!」

「と、とりあえず落ち着いて、明日学園に行って確かめましょう」

「そ、そうだな、今日はとりあえず休もう!」

「じゃあ、アンタ風呂入ってきなさいよ、その間に布団敷いとくから」

「わかった」

「その角曲がつて真っ直ぐ行った所が風呂場だから、着替えは父さんので良いわよね?」

「ああ、すまないな」

・・・・・・・・・・・・・・・・

「ふう、いい湯だった」

親父臭い? まあ、いいじゃないか

「あ、やつと上がった?」

「ああ、じゃあ寝るか?」

「うん、じゃあ・・・」

そついうと、布団に入り、端っこに寄る姿、

「えっと、どうしろと?」

「さっさと入りなさいよ!」

「いや、何で同じ布団！？」

「布団がこれしか無いのよ！」

く、でも今日少し寒いから布団に入らないと風邪ひくよな・・・

「わかった、わかったよ！」

俺は覚悟を決めて布団に入る、その際に体が触れたが、とても柔らかかった

「すうすう」

まったく、こっちは緊張して寝れないのに、気楽な奴だ
でも寝顔も可愛い・・・

ドキドキと 高鳴る鼓動 何だろぅ・・・（後書き）

ちなみに奏は主人公に惚れかけてます、
それにこの作品はハーレム系なので、後に続々とヒロインが
三人くらい出てきます

キャラ設定

篠ノ之龍次 階級ピアノ

容姿

赤髪で、背中まで伸びていて見た目はボサボサしている、触ってみると、意外に気持ちいい
目も赤く、顔は中性的、背は百七十五センチ位

能力

ベクトル変換

未元物質

龍の鼓動

詳細は本文で

.....

園咲 奏 階級フォルテ

容姿

金髪碧眼の美少女、普段は髪をポニーテールにしている
身長は百六十センチ程度

能力

テレパシー 他人と頭のなかで会話できる、また、他人同士を話させることも可能

学園に 来て早々に 問題が・・・（前書き）

今回ちょっと意味不的な場面があると思いますが。
その場合はご指摘していただけると有りがたいです

学園に 来て早々に 問題が・・・

翌日の朝

(うつ！まぶしい！)

俺はカーテンの隙間から入ってくる朝日を浴びて目を覚ました

あ、あれ！？動けない！なんで？

体の自由が利かないので何事かと見ると、奏が抱きついていた

「起きてくれ、奏さん」

俺はぺちぺちと軽く頬を叩く

「う、うつん、はっ！？アンタ、この！」

目が覚めるといきなり蹴ってくる奏さん、俺はそれを受け止める

「なにすんだよ」

「うるさいうるさいうるさい！あんた私のこと襲おうとしたわね！」

「違う違う、お前が抱きついてただろ？自分の起きたときの格好思
い出せよ」

「えっ？・・・／／／／／」

思い出した様で、奏は顔を赤くし、俯いてしまった

「おーい、そんな事より今日は学校行くんじゃないのか？」

「はっ！そうだった！」

おいおい、忘れてたのかよ。

まったくこつちからしたら重要な事なのに

・・・・・・・・・・・・・・・・

まあ、そんなこんなで俺と奏は五月雨学園に来た訳だが・・・

『ねえ、あの人凄くかつこよくない？』

『でもうちの制服着てないよ、転校生かな？』

『アンタ名前聞いてきなさいよ』

『でも隣に居るの園咲さんだよ？綺麗であんなカッコいい知り合いが居るなんて羨ましい！』

・・・鬱陶しい、今日になって気付いたんだが、
なんか妙に顔がカッコよくなってるんだよね。
まあ、嬉しいけど騒がしいのは嫌いだからな

「じゃあ私教室に行くから、職員室の位置は覚えたわね？」

「分かってるって、じゃあまた後でな」

「うん、それじゃあ」

そういつて分かれる俺達、ちなみに職員室は校門を入れて左側の二階

教室は右側の一階から二階になっている
奏は二年生のため、二階に教室がある

・・・・・・・・・・・・・・・・

コンコンッ

「すみません、篠ノ之龍次と言いますが。少しお話が有って来ました」

「はいはい、あなたが奏ちゃんの言ってた人ね。」

職員室に入ると、若い女の先生が俺のところに来た

「あなたには理事長に会ってもらいたいんだけど」

「あ、はい分かりました」

「それじゃあ、こちらに」

俺は職員室の更に奥の部屋に連れて行かれた

・・・・・・・・・・・・・・・・

「やあ、君が篠ノ之龍次君だね？」

その部屋に居たのは、年老いたとても優しそうな人だった

「はい、そうです」

「さて、君は記憶がないと言っていたね？」

ふむ、その辺りは奏が説明済みか

「はい、でもポケットの中にこの学校の生徒手帳が入ってたので、此処に来れば何か分かるかな？って思いまして」

「ふむ、君のことを調べたんだが、転校予定者の名簿の中に君の名前が在った

ことから君は此処に来る予定だったんだって事は分かったんだがな・
」

「それ意外には？」

「いや、特には無いな。まあ、君にはこの学校にぜひ通ってもらいたいと思うんだが、どうだい？」

学校か、少しは記憶が戻るかな？

「構いませんが、これを・・・」

俺は生徒手帳の能力表示のページを見せる

「ふーむ、確かに物凄い能力だ。今のフォルテ・フォルティッシモよりも上だろうな・・・」

「なんか、明らかに自重しないと駄目な気がするんですけど」

「・・・そうだね、ベクトル変換能力だけは封印しておいてくれ」

「じゃあ、未元物質と龍の鼓動は良いんですか？」

普通に考えればチート間違い無しなんだけど

「まあ、そつちは大丈夫だろう。それで、君には入学試験を受けて貰うんだが」

「え？試験あるんですか？」

だったら不味い、自信がない

「まあ、試験だな。入学時のランクを決める」

「まあ、それなら良いですけど」

能力ならまだ何とか・・・

「それじゃあ、一時間後に此処に来てくれ」

理事長から、一枚の紙が渡される。そこには地図らしきものが書かれていた

「了解しました」

そして俺はそこをでた・・・

・・・・・・・・・・・・・・・・

「ふう、まったく」

龍次が部屋を出たのを見ると、理事長――笹川 東二は息を吐いた

「まったく、神様も突然あんな子をよこすなんて」

東二も能力を持っている、その能力とは『対話』、森羅万象全てのものと対話するという能力だ

そして普通の人物には出来ない、神との対話も出来るという龍次以上のチート能力

対話した者の力を借りることなんかも出来るんだから恐ろしい

まあ、長くなつたが詳しくは先日にかのぼる

ある日突然神が私に話しかけてきた

『すまない、東二頼みがあるのだ』

『何でしょうか？神様』

『実はこの子をそつちの世界に行かせたいのだが』

『ああ、大体分かりましたよ』

つまりは、この子を家の学校に入れるということだろう

『ふむ、話が早くて助かる。では恐らく君の所に行くだろうから、その時は頼む』

『了解しました』

つてことがあつたからだ

まあ、別に嫌じゃないから良いが。

彼が暴走したら本当に世界が滅びかねないな。

まあ、その時のための対話か・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5321z/>

目が覚めて 翼が生えて イケメンに・・・

2011年12月19日22時52分発行